



Title	金水敏教授略歴・業績目録
Author(s)	
Citation	語文. 2022, 116-117, p. 167-184
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90797
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

金水敏教授略歴・業績目録

(学歴)

一九七九年三月 東京大学文学部卒業

一九八一年三月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了

一九八二年三月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学

博士(文学)(大阪大学)

(職歴)(併任、非常勤等については省略)

一九八二年四月 東京大学文学部助手

一九八三年四月 神戸大学教養部講師

一九八七年四月 大阪女子大学助教授

一九九〇年四月 神戸大学文学部助教授

一九九八年四月 大阪大学文学部助教授 (一九九九年四月、大学院文学研究科に配置換えとなる)

二〇〇一年四月 大阪大学大学院文学研究科教授

二〇〇七年四月～二〇一一年三月 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長

二〇一六年四月～二〇一八年三月 大阪大学大学院文学研究科長

二〇二〇年一二月 日本学士院会員

大阪大学名誉教授

二〇二二年三月 定年退職(予定)

論著目録 公刊された著書と論文のみを掲載。

詳しい論著目録は、Research Map (<https://researchmap.jp/read0015117>) を参照ください。

- | | | | |
|-------|--|----------|--------|
| (共著) | 『音訓篇立索引』古辞書音義集成第二十巻 | 一九八六年五月 | 汲古書院 |
| (共著) | 『指示詞』日本語文法セルフ・マスター・シリーズ4 | 一九八九年五月 | くろしお出版 |
| (共著) | 『指示詞』日本語研究資料集 | 一九九二年一〇月 | ひつじ書房 |
| (共著) | 『文法』岩波講座 言語の科学5 | 一九九七年一月 | 岩波書店 |
| (共著) | 『意味と文脈』現代言語学入門4 | 二〇〇〇年三月 | 岩波書店 |
| (共著) | 『時・否定と取り立て』日本語の文法2 | 二〇〇〇年十一月 | 岩波書店 |
| (共著) | 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』もつと知りたい！日本語7 | 二〇〇三年一月 | 岩波書店 |
| (編著) | 日本語存在表現の歴史 | 二〇〇六年二月 | ひつじ書房 |
| (共編著) | 『日本語史のインタフェース』シリーズ日本語史4 | 二〇〇七年九月 | くろしお出版 |
| (編著) | 役割語研究の展開 | 二〇〇八年七月 | 岩波書店 |
| (共著) | 『文法史』シリーズ日本語史3 | 二〇一一年五月 | くろしお出版 |
| (共編) | 歴史語用論の世界―文法化・待遇表現・発話行為 | 二〇一一年七月 | 岩波書店 |
| (共編) | ドラマと方言の新しい関係…『カーネーション』から『八重の桜』、そして『あまちゃん』へ | 二〇一四年六月 | ひつじ書房 |
| (編著) | コレモ日本語アルカ？―異人のことが生まれるとき（そうだったんだ！日本語） | 二〇一四年八月 | 笠間書院 |
| (編著) | 〈役割語〉小辞典 | 二〇一四年九月 | 岩波書店 |
| | | 二〇一四年九月 | 研究社 |

《論文》

人を主語とする存在表現―天草版平家物語を中心に―

一九八二年十二月 『国語と国文学』 五九・一二 東京大学国語

国文学会

「代名詞」「連体詞」「感動詞」「修飾語」「独立語」

一九八三年七月

『文法 付辞書』 研究資料日本古典文学第一二

上代・中古のキルとヲリ―状態化形式の推移―

一九八三年九月

てにをはの敬語法

一九八四年九月

卷 明治書院

談話標識の諸レベル―談話管理理論の視点から―

一九八五年五月

『情報処理学会研究報告』 九五・五二 情報

「いる」「おる」「ある」―存在表現の歴史と方言―

一九八四年十一月

名詞の指示について

一九八六年三月

連体修飾成分の機能

一九八六年三月

『築島裕博士還暦記念国語学論集』 明治書院

「人物の呼称」「コ・ソ・ア」「イルとアル」

一九八七年四月

『松村明教授古稀記念国語研究論集』 明治

言語データベース

一九八八年一月

(共著) 祭文・表白・願文

一九八八年三月

寺村秀夫「ほか」(編)『ケーススタディ日本

文法』 明治書院

データの蓄積

一九八八年十一月

『言語生活』 第四三四号

高山寺典籍文書綜合調査団(編)『高山寺古

典籍纂集』 高山寺資料叢書第十七冊 東京大

学出版会

「釈迦如来五百大願卷上下」「俱舍論中不染無知斷位料簡」「大宝広博楼閣善住秘密陀羅尼經卷上中下」「棺カラクル様或人説」(解題)

一九八八年一二月 『高山寺善本図録』 東京大学出版会

(共著) 「国際仏教学大学院大学本『摩訶止観』卷第一解題」

二〇一四年三月

『国際仏教学大学院大学蔵 金剛寺蔵 摩訶止

観 卷第二』日本古写経善本叢刊第七輯、国際

仏教学大学院大学日本古写経研究所 文科省

戦略プロジェクト実行委員会

代名詞と人称

一九八九年三月

『講座 日本語と日本語教育』第四卷 明治書

敬語優位から人称性優位へ―国語史の一潮流―

一九八九年三月

『女子大文学(国文篇)』第四〇号 大阪女子

KWIC索引

一九八九年四月

『言語』一八・四 大修館書店

「報告」についての覚え書き

一九八九年八月

仁田義雄「ほか」(編)『日本語のモダリ

ティ』くろしお出版

方向と選択―コチラ類の指示詞―

一九九〇年三月

『日本語学』九・三 明治書院

述語の意味層と叙述の立場

一九九〇年三月

『女子大文学(国文篇)』第四一号 大阪女子

大学

「役割」についての覚書

一九九〇年四月

『ことばの饗宴―うたげ 笈壽雄教授還暦

記念論集』くろしお出版

(共著) 談話管理理論からみた日本語の指示詞

一九九〇年五月

日本認知科学会(編)『認知科学の発展』第

3巻 講談社

メンタル・スペース理論を中心に―認知科学的観点から―

一九九〇年十一月

KLS 10: Proceedings of Fourteenth Annual

Meeting of the Kansai Linguistic Society

伝達の発話行為と日本語の文末形式

解題編 第一部 蘭学資料

受動文の歴史についての一考察

Carlson の Ontology と日本語

談話管理理論からみた「だろう」

ボケとツッコミ―語用論による漫才の会話の分析―

AWKによるテキスト型データベース活用術

(共著) 日本語指示詞研究史から／へ

欧文翻訳と受動文―江戸時代を中心に―

受動文の固有・非固有性について

〈言語学の最新情報〉―日本語学終助詞ヨ・ネ―

終助詞ヨ・ネの意味論的分析

古事記のテンス・アスペクト

状態化形式の推移補記

一九九一年三月 『紀要』第一八号 神戸大学文学部

一九九一年三月 大阪女子大学附属図書館(編)『大阪女子大

学蔵 蘭学英学資料選』

一九九一年三月 『国語学』第一六四集 国語学大会

一九九一年十一月 KLS 11: Proceedings of Fifteenth Annual

Meeting of the Kansai Linguistic Society

一九九二年三月 『紀要』第一九号 神戸大学文学部

一九九二年六月 大阪女子大学国文学研究室(編)『上方の文

化 上方ことばの今昔』上方文庫一三 和泉書院

一九九二年六月 『日本語学』一一六 明治書院

一九九二年一〇月 金水敏「ほか」(編)『指示詞』日本語研究資

料集 ひつじ書房

一九九二年一二月 『文化言語学―その提言と建設―』三

省堂

一九九三年二月 近代語学会(編)『近代語研究』第九集 武

蔵野書院

一九九三年四月 『言語』二二・四 大修館書店

一九九三年五月 『学習と対話』九三・一 日本認知科学会学

習と対話研究分科会資料

一九九三年七月 『国文学 解釈と鑑賞』五八・七 至文堂

一九九三年一〇月 松村明先生喜寿記念会(編)『国語研究』明

文学部生にパソコンを教える

古典語の「ヲ」について

談話標識の諸レベル―談話管理理論の視点から―

連体修飾の「くた」について

日本語の状態化形式の構造について

パソコン実習におけるフリースフトウェアの利用

どんなネットワークにしたい? どんなユーザになりたい? ―'94 ネットワーク・ユーザ・アンケートの集計報告―

談話標識の諸レベル―談話管理理論の視点から―

「語りのハ」に関する覚書

「進行態」とはなにか

KHANからインターネットへ

パソコン利用の現状と課題―国語史―

いわゆる「進行態」について

治書院

一九九三年一二月 『情報処理語学文学研究会会報』第一四号

一九九三年一二月 仁田義雄(編)『日本語の格をめぐる』く

ろしお出版

一九九四年五月 『情報処理学会研究報告』九四・四五(九四

CH-112) 情報処理学会

一九九四年六月 田窪行則(編)『日本語の名詞修飾表現』く

ろしお出版

一九九四年九月 『国語学』一七八集 国語学会

一九九五年二月 『人文学と情報処理』六号 勉誠社

『MAGE』一七・二

一九九五年三月 神戸大学総合情報処理

センター

一九九五年五月 『情報処理学会研究報告』九五・五一 情報

処理学会

一九九五年五月 益岡隆志「ほか」(編)『日本語の主題と取り

たて』くろしお出版

一九九五年七月 『国文学 解釈と鑑賞』六〇・七 至文堂

一九九五年一〇月 『MAGE』一八・一 神戸大学総合情報処理

センター

一九九五年七月 『日本語学』一四・八 明治書院

一九九五年一〇月 築島裕博士古稀記念会(編)『築島裕博士古

日本語史からみた助詞

敬語と人称表現―「視点」との関連から―

(共著) 対話と共有知識―談話管理理論の立場から―

日本語の存在表現の地理的分布と歴史的解釈

「おる」の機能の歴史的考察

(共著) 複数の心的領域による談話管理

(共著) 応答詞・感動詞の談話的機能

現在の存在を表す「いた」について―国語史資料と方言から―

方便智院聖教目録(翻字・解題)、唐本一切経目録書名索引(共著)

(共著) 談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究

いわゆる、ムードの「タ」、について―状態性との関連から―

計算機による古典籍資料の組版・印刷について

稀記念国語学論集 汲古書院

『言語』二四・一一 大修館書店

『国文学解釈と教材の研究』四〇・一四 學

燈社

『言語』二五・一 大修館書店

『文化学年報』第一五号 神戸大学大学院文

化学研究科

山口明穂教授還暦記念会(編)『山口明穂教

授還暦記念国語学論集』明治書院

『認知科学』三・三 日本認知科学会

音声文法研究会(編)『文法と音声』くろし

お出版

川端善明「ほか」(編)『日本語文法体系と

方法』ひつじ書房

高山寺典籍文書調査団(編)『明恵上人資料

第四』高山寺資料叢書第十八冊 東京大学出

版会

堂下修司「ほか」(編)『音声による人間と機

械の対話』オーム社

『東京大学国語研究室創設百周年記念国語

研究論集』汲古書院

『訓点語と訓点資料』記念特輯 訓点語学会

「あり」「ゐる」「をり」＝存在の表現の意義

一九九八年一〇月

『国文学解釈と教材の研究』四三・一一 學燈社

「移動表現」「感嘆表現」「敬語動詞」「視点と敬語」(新しい古典文法のキーワード)

一九九八年一〇月

『国文学解釈と教材の研究』四三・一一 學燈社

補説 日本語史

一九九九年一月

西光義弘(編)『日英語対照による英語学概論増補版』くろしお出版

LaTeXによる古典籍のコード化について

一九九九年五月

『情報処理学会研究報告』九九・四三 情報処理学会

大阪方言の特殊拍アクセントについて―『大阪・東京アクセント音声辞典CD-ROM』による―

一九九九年六月

音声文法研究会(編)『文法と音声Ⅱ』くろしお出版

日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について

一九九九年七月

『自然言語処理』六・四 言語処理学会

一九九九年一〇月

近代語学会(編)『近代語研究』第一〇集 武蔵野書院

(共著)複数の心的領域による談話管理

二〇〇〇年八月

坂原茂(編)『認知言語学の発展』ひつじ書房(田窪・金水1996を一部改変したもの)

指示詞―直示再考―

二〇〇〇年十一月

中村明(編)『現代日本語必携』別冊國文學、No.五三 學燈社

役割語探求の提案

二〇〇〇年十一月

佐藤喜代治(編)『国語史の新視点』国語論究、第八集 明治書院

文法化と意味―「ゝおる（よる）」論のために―
テンスと情報

二〇〇一年二月 『国文学 解釈と教材の研究』四六―二 學燈社
二〇〇一年十二月 音声文法研究会（編）『文法と音声』Ⅲ くろしお出版

平安時代の「をり」再考―卑語性の検討を中心に―

二〇〇二年三月 『大阪大学大学院文学研究科紀要』四二 大阪大学大学院文学研究科

〔共著〕高山寺「観智記」鎌倉時代中期写本・解題並びに翻刻

二〇〇二年三月 『実践国文学』第六一号 実践女子大学

古典籍の組版・印字について

二〇〇二年三月 『懐徳』第七〇号 懐徳堂記念会

日本語の構文論

二〇〇二年四月 『文法』現代日本語講座、五 明治書院

「音便」「係り受け」「学校文法」「活用」「言語過程説」「所動詞」「助動詞の相互承接」「陳述論」「伝統文法」「時枝単位」「取り立て助詞」「能動詞」「橋本単位」「ハのピリオド越え」「品詞」「文節」「ライマンの法則」「連濁」「連文節」

二〇〇二年八月 日本認知科学会（編）『認知科学辞典』共立出版株式会社

日本語文法の歴史的研究における理論と記述

二〇〇二年九月 日本語文法学会（編）『日本語文法』二―二くろしお出版

近代語とステレオタイプ

二〇〇二年十一月 『国語と国文学』七九―一一 東京大学国語国文学会

〔共著〕指示詞の歴史的・対照言語学的研究―日本語・韓国語・トルコ語―

二〇〇二年十一月 生越直樹（編）『対照言語学』シリーズ言語科学、四 東京大学出版会

存在表現の構造と意味

二〇〇二年十二月 近代語学会（編）『近代語研究』第一集 武蔵野書院

恵果和尚之碑文一帖（第一部二二一号）凡例、影印、訳文、訓点要語索引、解題

二〇〇三年八月

高山寺典籍文書綜合調査団（編）『高山寺古
訓点資料 第四』高山寺資料叢書第二十三冊
東京大学出版会

「シンポジウム開催の趣旨と経緯」「文法史の捉え方―生成文法と機能言語学を中心に―」「自由討議の概要」「総括」

二〇〇三年一〇月

『国語学』五四・四（通巻二一五号）国語学会

シンポジウム『係り結び』から見えるもの―古い問題への新しい取り組み―（総括）

二〇〇三年一〇月

KLS 11111: Proceedings of the Twenty-
seventh Annual Meeting October 11-16-11
七、二〇〇二 関西言語学会

ラ抜き言葉の歴史的变化

二〇〇三年四月

『言語』三二・四 大修館書店

所有表現の歴史的变化

二〇〇三年一月

『言語』三二・一 大修館書店

日本語の敬語の歴史と文法化

二〇〇四年四月

『言語』三三・四 大修館書店

敬語動詞における視点中和の原理について

二〇〇四年五月

音声文法研究会（編）『文法と音声Ⅳ』く
ろしお出版

文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述

二〇〇四年七月

影山太郎『ほか』（編）『日本語の分析と言語
類型』柴谷方良教授還暦記念論文集 くろし
お出版

全国共通語「おる」の機能とその起源

二〇〇四年八月

近代語学会（編）『近代語研究』第二二集 武
蔵野書院

研究手帳…〈アルヨことば〉その後

二〇〇四年十一月

『いずみ』通信』三 和泉書院

近代日本小説における「（人が）いる／ある」の意味変化

二〇〇四年十二月

『待兼山論叢』文学篇、第三八号 大阪大学
大学院文学研究科

歴史的に見た「いる」と「ある」の関係

二〇〇五年三月

日本語文法学会(編)『日本語文法』五一—くろしお出版

金剛寺一切経の古訓点本——『維摩経』を中心に——

二〇〇五年五月

石塚晴通教授退職記念会(編)『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院

日本語敬語の文法化と意味変化

二〇〇五年七月

古代・中世の「をり」と文体

二〇〇五年一〇月

『日本語の研究』一—三 日本語学会
築島裕博士傘寿記念会(編)『築島裕博士傘寿記念国語学論集』汲古書院

役割語

二〇〇五年一〇月

真田信治「ほか」(編)『日本の多言語社会』岩波書店

存在表現の歴史と方言

二〇〇五年一一月

『国語と国文学』八二—一一 東京大学国語国文学会

役割語としてのビジン日本語の歴史素描

二〇〇六年四月

上田功「ほか」(編)『言外と言内の交流分野・小泉保博士傘寿記念論文集』大学書林

シンポジウム 対照役割語論への誘い(いざな)い(総括)

二〇〇六年六月

KLS 116: Proceedings of the Thirtieth Annual Meeting June 四—五 二〇〇五 関西言語学会

古代・中世日本語用例のローマ字表記について

二〇〇六年九月

音声文法研究会(編)『文法と音声 V』くろしお出版

日本語アスペクトの歴史的研究

二〇〇六年九月

日本語文法学会(編)『日本語文法』六一—くろしお出版

「〜でいる」について

二〇〇六年一〇月

日本(語)への発信・日本(語)からの発信(シンポジウム「歴史語用論…その可能性と課題」)

役割語研究の展開

言語コミュニティと文体・スピーチスタイル

言と文の日本語史

(共著) 金剛寺藏長寛三年写『観無量寿経』影印・訓読・解題

意志性・主観性と文脈

4・1・3 文法2―文末表現

「敬語優位から人称性優位へ」再考

現代日本語の役割語…ステレオタイプの話体の研究

現代日本語の役割語と発話キャラクター

日本語と英語との接触―昭和・平成を中心に―

翻訳における制約と創造性―役割語の観点から―

日本語史とはなにか―言語を階層的な資源と見る立場から―

第9章・丁寧語の語源と発達

二〇〇六年二月 『語用論研究』八 日本語用論学会

二〇〇六年十二月 『日本語学研究』一七 韓国日本語学会

二〇〇七年四月 加藤昌嘉(編)『源氏物語のことばと表現』講

座 源氏物語研究、八 おうふう

二〇〇七年一月 『文学』第八巻・第六号 岩波書店

二〇〇八年十二月 『金剛寺藏観無量寿経・無量寿経優婆提舍願

生偈註』国際仏教大学院大学学術フロン

ティア実行委員会

二〇〇九年二月 由本陽子「ほか」(編)『語彙の意味と文法』

くろしお出版

二〇〇九年十一月 計量国語学会(編)『計量国語学事典』(株)

朝倉書店

二〇一〇年二月 『語文』第九二・九三輯 大阪大学国語国文

学会

二〇一〇年六月 『言語学と日本語教育』VI くろしお出版

二〇一〇年八月 『日東学研究』2012 韓国・江原大学校・

日本学研究会センター

二〇一〇年十一月 『日本語学』二九・一四 明治書院

二〇一一年三月 杉藤美代子(編)『音声文法』くろしお出版

二〇一一年三月 『早稲田大学日本語研究』第二〇号 早稲田

大学日本語学会

二〇一一年四月 高田博行「ほか」(編)著『歴史語用論入門

日本語の将来を考える視点―「言語資源論」の視点から―

二〇一一年五月

―過去のコミュニケーションを復元する―
シリーズ・言語学フロンティア、三 大修館
書店

(共著) 大阪大学卒業論文より (2002～2010)

二〇一一年五月

『学術の動向』第一六巻第五号 日本学術会
議(編集協力)・(財)日本学術協力財団(発
行)

現代日本語の役割語と発話キャラクター

二〇一一年五月

金水敏(編)『役割語研究の展開』くろしお
出版

(共著) フランス語談話会報告「時制体系をめぐる対照言語学的視点」(金水担当は「物語構成のための階層的時間把握―芥川龍之介「羅生門」を
例に―」)

二〇一一年六月

『フランス語学研究』第四五号 日本フラン
ス語学会

第1章 文法史とは何か 第3章 統語論 第5章 直示と人称 5・1 人称に関わる現象の歴史的变化

二〇一一年七月

金水敏「ほか」(著)『文法史』シリーズ日本
語史、三 岩波書店

言語の ecology/ecology の言語―国語・方言・グローバリゼーション―

二〇一一年八月

『日語日文学研究』七八―一 韓国日語日文
学会

言語資源論から平安時代語を捉える―平安時代「言文一途」論再考―

二〇一一年九月

『訓点語と訓点資料』第一二七輯 訓点語学
会

第1章 日本語史

二〇一一年一〇月

益岡隆志(編著)『はじめて学ぶ日本語学―

ことばの奥深さを知る「一五章」 ミネル
ヴァ書房

役割語と日本語教育

理由の疑問詞疑問文とスコープ表示について

二〇一一年二月

『日本語教育』一五〇号 日本語教育学会

二〇一二年三月

近代語学会(編)『近代語研究』第一六集 武蔵野書院

(共著) "Modern Japanese 'Role Language' (Yakuwarigo) : fictionalised orality in Japanese literature and popular culture"

二〇一一年

Sociolinguistic Studies Vol 5 - 1 "Sheffield: Equinox Publishing"

疑問文のスコープと助詞「か」「の」

二〇一二年十一月

『国語と国文学』八九-1 東京大学国語

(共著) 国弘本『摩訶止観 巻第一』について

二〇一二年十二月

国文学会(編)明治書院(発行)『いとくら』第八号 国際仏教学大学院大学

日本語の疑問詞疑問文と「の」の有無

二〇一二年十二月

『語文』九九 大阪大学国語国文学会

役割語研究の10年

二〇一三年六月

『台湾日本語文庫』三三 台湾日本語文庫

役割語研究の10年

二〇一三年六月

『日本研究』第一四輯 釜山大学校・日本研究

日本語語彙史とは何か―言語を階層的な資源と見る立場から―

二〇一三年六月

『日本語・日本語教育三語彙』(同、韓国語訳) J&C

第15回BATJ大会: 基調講演 日本語の正しさとは何か

二〇一三年九月

BATJ Journal No.14 英国日本語教育学会

役割語研究の10年―日本大学国文学会講演記録―

二〇一三年十二月

『語文』第一七輯 日本大学国文学会

(共著)「国際仏教学大学院大学本『摩訶止観』巻第一(翻字)」

二〇一四年三月

『国際仏教学大学院大学蔵 金剛寺蔵 摩訶止

フィクションの話し言葉について―役割語を中心に―

二〇一四年九月

講演要旨 日本語疑問文の問題点

二〇一四年十一月

日本語の疑問文の歴史素描

二〇一五年二月

文献と言語変種―文献に残されたことばの多様性が意味するところ―

二〇一五年三月

古代日本語の主格・対格の語順について

二〇一五年三月

〔共著〕 日本語史資料として見た岩屋寺蔵『高僧伝』について

二〇一五年三月

役割語とその翻訳について

二〇一五年五月

〔役割語〕

二〇一五年八月

〔変項名詞句〕の意味解釈について

二〇一五年一〇月

観 卷第二『日本古写経善本叢刊第七輯、国際
仏教学大学院大学日本古写経研究所 文科省
戦略プロジェクト実行委員会』

石黒圭「ほか」(編)『話し言葉と書き言葉の
接点』ひつじ書房

『歴史言語学』第三号 日本歴史言語学会

『国語研プロジェクトレビュー』第五卷第三
号 国立国語研究所

高田博行「ほか」(編)著『歴史社会言語学
入門』大修館書店

江頭浩樹「ほか」(編)『より良き代案を絶え
ず求めて』開拓社

国際シンポジウム報告書二〇一四東アジア
仏教写本研究 国際仏教学大学院大学 日本
古写経研究所 文科省戦略プロジェクト実行
委員会

定延利之(編)『私たちの日本語研究…問題
のありかと研究のあり方』朝倉書店

齋藤純男「ほか」(編)『明解言語学辞典』
三省堂

『日中言語研究と日本語教育』第八号 日中
言語研究と日本語教育研究会・好文出版

大学での日本語史入門―私はこんな授業をしている―

二〇一六年六月

福嶋健伸「ほか」(編)『日本語学の教え方―教育の意義と実践―』くろしお出版

「ウナギ文」再び―日英語の違いに着目して―

二〇一六年十一月

福田嘉一郎「ほか」(編)『名詞類の文法』くろしお出版

役割語研究の国際的展開

二〇一六年十二月

Aydin Ozbek 「ほか」(eds.) *Japon Dili ve Kulturü Egitimi Arastirmalarina Yeni Yaklasimlar* 日本語・日本文化教育研究への新アプローチ JDLシリーズII Paradigma Akademi

歴史言語学の新しい潮流―歴史語用論と歴史社会言語学―

二〇一七年六月

KLS 三七 (関西言語学会 ※関西言語学会 第41回大会シンポジウムIのまとめ)

文法研究におけるデータについて―文法研究は経験科学たりうるか―(特集…文法性判断に基づく研究の可能性)

二〇一七年九月

日本語文法学会(編)『日本語文法』一七二くろしお出版

誌上講座「役割語・キャラクター言語とその習得」

二〇一七年十二月

『第二言語としての日本語の習得研究』第二〇号 編集…第二言語習得研究会 発行…凡人社

(共著) 第40回研究大会ワークショップ 役割語・キャラクター言語から見た翻訳研究―村上春樹作品を中心に―

二〇一八年三月

『社会言語科学』第二〇巻第二号 社会言語科学会

役割語と関西弁

二〇一八年三月

監修…真田信治 岸江信介「ほか」編『関西弁事典』ひつじ書房

リスト存在文について

二〇一八年四月

魅惑するナカタさんワールド

二〇一八年六月

キャラクターとフィクション―宮崎駿監督のアニメ作品、村上春樹の小説をケーススタディとして―

二〇一八年七月

定延利之(編)『キャラ』概念の広がりと深まりに向けて 三省堂

小説における仮名の一用法と翻訳―村上春樹作品を例に―

二〇一八年一〇月

格助詞【歴史】口語文法・文語文法構文史 構文論 存在表現 陳述 人称 役割語

二〇一八年一〇月

日本語学会(編)『日本語学大辞典』東京堂出版

第六章 アニメキャラクターの言葉

二〇一九年四月

田中牧郎(編)『現代の語彙―男女平等の時代―』シリーズ〈日本語の語彙〉七 朝倉書店

「焦点」の外延的意味論による解釈一斑

二〇一九年六月

村上春樹作品と日本語史の共鳴―『騎士団長殺し』騎士団長の「あらない」再考―

二〇一九年七月

中村三春「ほか」(編)『村上春樹における共鳴』淡江大学出版中心

SPレコード資料における人の存在文

二〇一九年八月

金澤裕之「ほか」(編)『SP盤落語レコードがひらく近代日本語研究』笠間書院

(共著) 高山寺蔵『観智記第二』鎌倉時代中期写本・影印

二〇二〇年三月

平成三十年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集 高山寺典籍文書綜合調査団

（共著） 高山寺蔵「観智記」鎌倉時代中期写本 解題並びに翻字本文

二〇二〇年三月

高山寺典籍文書綜合調査団（編）『高山寺経蔵の形成と伝承』 汲古書院

村上春樹と関西方言について―遠心的／求心的な移動とポリフォニー

二〇二〇年七月

中村三春「ほか」（編）『村上春樹における移動』 淡江大学出版中心

（共著） 中国・抗日作品のメディアミックスと日本人表象―『鶏毛信』を例に―

二〇二〇年十一月

秦かおり「ほか」（編）『メディアとことば五』 ひつじ書房

第15章 事態把握と受動文

二〇二一年一月

岸本英樹「ほか」（編）『日語語法研究（上）』 外語教学と研究出版社（北京）

ポピュラーカルチャーのことば

二〇二一年三月

『日本語学』四〇―一【特集】ポップカルチャーの日本語 明治書院

近・現代小説の片仮名の用法一斑―村上春樹『海辺のカフカ』を中心に―

二〇二一年三月

加藤茂博「ほか」（編）『日本語文字論の挑戦―表記・文字・文献を考えるための一七章

― 勉強出版